

デイサービスで「園芸療法」

高齢化社会の到来でシルバービジネスが拡大している。成長市場を狙って競合が激しさを増すなか「園芸療法」という付加価値で市場開拓を狙うのが島田建設（千葉県成田市）だ。土や農作物に気軽に触れることができる環境を提供し、高齢者の心身の健康づくりを支援している。

同社のシルバービジネスの拠点となっているのが、成田市と旭市に3カ所あるデイサービス施設だ。要介護や要支援の高齢者に通所介護サービスを提供。利用者にはハビリやレクリエーション、入浴などのサービスを受けることができる。

千葉企業の実力

一点突破

島田建設 (成田市)

《profile》

1907年創業で、島田隆社主は5代目になる。公共工事や耐震リフォームなどを手がけている。



農作業を体験し心身の健康づくりに役立ててもらおう

作物を栽培し、世話をしたり収穫したりできる。

農作業といっても負荷の高い仕事をやるわけではない。作業の大半はデイサービスのスタッフがこなし、高齢者にはその一部を体験してもらおう。「収穫を体験すれば自分で作った気持ちになる。楽しんで元気になってもらいたい」と島田隆

メーシから園芸療法を取り入れたが、04年から千葉大学との共同研究で効果の検証にも取り組んでいる。

同大環境健康フィールド科学センターの野田勝二助教は「高齢者は園芸を楽しむんだり、会話のネタにしたりしている」と指摘し、気分の改善や身体のリハビリに役立つとみる。高齢者向けのレクリエーションは他にもあるが、個人によって好き嫌いが分かれる。この点、園芸を嫌う人は少ない

のも利点という。同社が介護ビジネスに参入したのは建設と福祉を組み合わせた、地域密着の事業を展開するのが狙いだ。談合などで当時、建設や公共

農業振興めざし 生産法人も紹介

島田建設はNPO法人を設立してセミナーやシンポジウムを開催するなど園芸療法の普及に取り組んでいる。そこには高齢者の福祉だけでなく、農業振興につながる狙いもある。デイサービスで耕作放棄地を畑と

農作業の評判が芳しくなかったこともあり「社会に役立つことをしたいと考えた」と島田社主は苦笑する。ただデイサービスは参入が容易なため競合が激しい。今後は園芸療法のノウハウを武器に、サービス付き高齢者向け住宅(サ高住)の受注にシフトする計画だ。第1弾として千葉県神

して利用するのも農地の維持に役立てるためだ。今後はサ高住を農業振興につなげようとしている。入居者の中で農業に関心のある人には農業生産法人などを紹介し、本格的に農業に取り組んでもらう。就業に意欲のある子世帯も呼び込み、3世代が近くに住む街づくりを目指す。

神崎町のサ高住は他社の物件だが、旭市では自社で運営するサ高住を年内に着工する計画だ。園芸療法を売り物にし、今後の受注活動にも役立てる。同社の売上高は年間約6億円だが、サ高住の受注を軌道に乗せることで10億円に引き上げたい考えだ。

高齢者住宅にも併設

各施設は近くに畑を併設する。「園芸デイサービスなりた」では50坪ほど離れた場所に約2000平方メートルの畑があり、デイサービスを利用する高齢者が毎日10人ほど訪れる。畑ではジャガイモやソラマメなどの農

社主は話す。同社がデイサービスを始めたのは2002年。当初は心身に良さそうだとのイ

入したのは建設と福祉を組み合わせた、地域密着の事業を展開するのが狙いだ。談合などで当時、建設や公共

第1弾として千葉県神崎町でサ高住の設計、施工を受注し、6月にオープン

たい考えだ。

千葉

千葉支局 043-227-4346